

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校 岡山情報ビジネス学院	昭和61年7月26日	学院長 三村 光	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話)086-224-2336																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 三友学園	昭和61年7月26日	理事長 野津 基弘	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話)086-224-2336																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
商業実務	商業実務専門課程	公務員学科	平成14年2月27日 文部科学省告示	-																			
学科の目的	社会や人に「必要とされる人材」になることを目標とし、日々心の成長に努める。公務員試験に向けての勉強はもちろんのこと、官庁訪問や企業連携を通じて、現場で即戦力となり、多くの人の力となって活躍できる人材育成を行う。																						
認定年月日	平成28年2月19日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1,738	1,155	983	68	0	0																
2206時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
60人	61人	0人	4人	2人	6人																		
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価はS、A、B、C、Dの4段階 科目終了時に試験、レポート等で評価																		
長期休み	■夏季休業日:8月9日～8月28日 ■冬季休業日:12月19日～翌年1月12日 ■春季休業日:2月6日～3月13日			卒業・進級条件	①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③公務員試験1次試験(体力試験除く)、漢字検定3級、ニュース検定3級、サーティファイExcel検定3級、コミュニケーション検定初級のうち2つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等			課外活動	■課外活動の種類 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、東京研修 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 国家公務員、県・市役所職員、警察官、消防士、刑務官、海上保安官、自衛官 他 ■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。 ■卒業生数: 21人 ■就職希望者数: 20人 ■就職者数: 20人 ■就職率: 100.0% ■卒業者に占める就職者の割合: 95.2% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業者に関する 令和4年6月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公務員1次試験</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>Excel表計算処理試験3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>ニュース時事能力検定3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	公務員1次試験	③	21人	21人	Excel表計算処理試験3級	③	21人	13人	ニュース時事能力検定3級	③	21人	10人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
公務員1次試験	③	21人	21人																				
Excel表計算処理試験3級	③	21人	13人																				
ニュース時事能力検定3級	③	21人	10人																				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 4.3% 令和3年4月1日時点において、在学者47名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者45名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有・無) ・OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施) ・後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有・無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf																						
当該学科のホームページURL	URL https://oic-ok.ac.jp/course/public_servant/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

著しく変化する公務員職域の環境下で、求められる公務員像は多様化している。全体の奉仕者としての立場で職務に就く人材を育成するためには、現場の声や求められる人材像を深く理解する必要がある。そのためにも、公務員の現場に関わる方々や自治体に関する知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、住み良いまちづくりや治安維持、防災対策等その実情と求められる人材像について幅広く意見や提案をいただき、カリキュラムの追加や内容更新、教材作成・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

公務員・商業実務分野における人材育成のために、公務員・商業実務分野関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
竹井 一雄	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
神崎 浩二	岡山県経済団体連絡協議会事務局長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
山崎 弘一	社会福祉法人 吉備の里 希望 所長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
渡部 千佳子	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務課長 兼 公務員学科 学科長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
武下 浩史	専門学校 岡山情報ビジネス学院 公務員学科 主任	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (例年の開催時期は、8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月26日 16:00～16:50

第2回 令和4年1月28日 16:00～16:45

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

<委員会意見より現在実施中項目>

仕事において、情報発信をしていくことは必ず必要となってくると思われる。コミュニケーションの一つのツールとしてSNSやYoutubeなどがあるが、視聴回数が上がるテクニックや分かりやすさ、字幕を入れるなど様々な要素があると思う。エッセンスをつけると共に、動画を作成する際に学生間でコミュニケーションが活発になってくると思われる。技術を取得すると同時にコミュニケーション力を高めるといふ学びが生まれると考えられるので、動画を作成する時間があるといい。

<委員会意見より現在実施中項目>

2022年度より「情報リテラシー」という科目を新設し、簡単なプログラミング理解、動画編集の授業を導入。しっかりと思いを表現していかなければ動画は上手く作成できないため学生たちは苦戦している様子。自分の思いだけでなく、相手の気持ち反応を確認しながら作成をしている雰囲気を見て、心の面が成長しているようにも感じ取れる。一つひとつ課題解決しながら取り組むことが大切だと実感している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

公務員としての職責を全うするために、現場での体験や仕事内容について公務員として求められる人的資質の部分での理解を深め、目的意識を明確にすることをねらいとする。東日本大震災等の復興支援で活動された現役の防衛省自衛隊の方に連携授業を依頼し、体験談を踏まえて学生に講義をしていただいた。これから公務員を目指す学生に対して将来公務員としての職に就くうえで必要な資質、目的意識を明確にできるような指導をどのように行うべきかについて直接助言や協力を得られる体制をとっている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

科目担当教員と連携先である防衛省自衛隊の講義担当者が事前に授業内容と目的について打ち合わせを行い、実習スケジュールを作成する。担当教員の指導のもとに段階ごとに課題および発表資料の作成を行う。実際に駐屯地にて宿泊し、防衛省自衛隊生活や訓練を体験するとともに、東日本大震災等復興支援の体験講話をいただく。併せて公務員として必要な資質等の講義と学生作成課題に関する指導、フィードバックをしていただく。成績評価の基準について事前に打ち合わせを実施し、防衛省自衛隊の担当者に評価をいただく。その評価をふまえ、担当教員が成績評価（5段階評価）を行い後期評価とする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリア実習	課題解決・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を身につける。	自衛隊香川地方協力本部

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・主催:株式会社 実務教育出版
- ・日程:令和4年2月3日(木)
- ・参加者:渡部 千佳子、武下 浩史、今城 直也
- ・研修名:公務員初級本科研修会

株式会社実務教育出版は、『公務員試験 受験ジャーナル』および公務員受験参考書および問題集などの書籍の発行と、全国の専門学校などと事業提携し、全国各地に『公務員合格セミナー』を開講し、学内における公務員試験対策のための『学内公務員講座』の受託業務を行っている。本校は公務員受験情報や対策講座、研修等で岡山県内専門学校では唯一の提携校となっている。公務員学科教員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、学内研修・学外研修・自己啓発・その他研修に分類し、年間研修計画及び研修規定に基づいて研修受講を行う。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する内部研修の実施を必須とする。

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・主催:株式会社 進研アド
- ・日程:令和3年6月14日
- ・参加者:渡部 千佳子、武下 浩史、今城 直也
- ・研修名:「基礎力リサーチ」フィードバック教師研修

株式会社 進研アドは、入学者に対して、入学時及び進級時に学びの定着化を図ったり、退学予防に役立てたりすることを目的とした「基礎力リサーチ」を提供していただき、本校と連携をしている。株式会社 進研アドが、「基礎力リサーチ」結果をもとにさまざまな角度から分析した結果を各学科の担任にフィードバックを行い、今後の学生指導に役立てるための研修である。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・主催:株式会社 実務教育出版
- ・日程:令和5年2月上旬予定
- ・参加者:渡部 千佳子、武下 浩史、今城 直也、高橋 正太
- ・研修名:公務員初級本科研修会

株式会社実務教育出版は全国の専門学校などと事業連携し、公務員受験情報や対策講座を行っており、岡山県内の専門学校としては本校が唯一の提携校である。「試験情報分析の伝達」「提携校と意見交換を行い、共通理解を深める」「提携校による実績報告」より、学校運営、学生指導をはじめ公務員になるにあたって必要とされる人材を提携校と共有し、効果的な公務員受験の情報を得ることを目的とする研修である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・主催:株式会社 進研アド
- ・日程:令和4年6月下旬～8月予定
- ・参加者:渡部 千佳子、武下 浩史、今城 直也、高橋 正太
- ・研修名:「基礎力リサーチ」フィードバック教師研修

株式会社 進研アドは、入学者に対して、入学時及び進級時に学びの定着化を図ったり、退学予防に役立てたりすることを目的とした「基礎力リサーチ」を提供していただき、本校と連携をしている。株式会社 進研アドが、「基礎力リサーチ」結果をもとにさまざまな角度から分析した結果を各学科の担任にフィードバックを行い、今後の学生指導に役立てるための研修である。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生・ 企業等委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	PTA
山本 涉	医療法人和香会 倉敷スイートホテル 運営企画室室長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員
佐藤 新之助	株式会社イトン イートンちどり保育園 取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 総務戦略本部 本部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	株式会社アールアールジェイ 岡山支店 支店長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員
竹井 一雄	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社 トスコ 常務取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

公表時期:令和4年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 公務員学科) 令和4年度 1年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
1	○		政治経済Ⅰ	日本の政治および経済の基礎を習得する。	1 通 年	30	2	○	△		○		○		
2	○		歴史Ⅰ	日本史および世界史の基礎を習得する。	1 後 期	16	1	○	△		○		○		
3	○		地理Ⅰ	日本および世界の基礎を習得する。	1 後 期	15	1	○	△		○		○		
4	○		生物・地学Ⅰ	植物や動物の生態の基礎を習得する。天、地の基礎を習得する。	1 通 年	30	2	○	△		○		○		
5	○		物理・化学Ⅰ	力学や電気に関する基礎を習得する。物質の構造や化学反応式に関する基礎を習得する。	1 通 年	30	2	○	△		○		○		
6	○		判断推理Ⅰ	論理的な思考から、問題を解く力を答練を通じて身に付ける。	1 前 期	30	2	○	△		○		○		
7	○		判断推理Ⅱ	文章や図形などで与えられた条件をもとに判断する力を習得する。	1 後 期	15	1	○	△		○		○		
8	○		数的推理Ⅰ	数や式から与えられる数的条件をもとに問題を解決する力を習得する。	1 前 期	30	2	○	△		○		○		
9	○		数的推理Ⅱ	数式だけでなく、論理的な思考から問題を解く力を答練を通じて身につける。	1 後 期	15	1	○	△		○		○		
10	○		文書実務Ⅰ	文書作成の基礎の習得。社会人において必要とされる文書作成能力を身につける。	1 前 期	15	1		○	△	○		○		
11	○		作文・面接Ⅰ	自分の経験に基づいた作文作成力、自己PR・志望動機作成等の面接対応力を習得する。	1 通 年	15	1	△	○		○		○		
12	○		教養演習Ⅰ	前期の学習内容を実践的にまとめ、来年度の公務員試験を見据えて模擬試験の実践編、面接対策を取り入れ、試験本番の雰囲気を取り入れた授業を実践する。	1 後 期	18	0		○		○		○		
13		○	分野別特講Ⅰ行政研究	事務系分野の公務員試験で必須となる国語分野・数学分野を中心に基礎力を高める。	1 前 期	30	2	○	△		○		○		
14		○	分野別特講Ⅱ行政研究	事務系分野の公務員試験で必須となる国語分野・数学分野を中心に基礎力を高める。	1 後 期	39	2	○	△		○		○		
15		○	分野別特講Ⅰ体育	公安系分野の公務員試験で必須となる体力強化の方法の基礎を習得する。	1 前 期	30	2		○	△		○	○		
16		○	分野別特講Ⅱ体育	公安系分野の公務員試験で必須となる体力強化の方法の基礎を習得する。	1 後 期	39	2		○	△		○	○		
17	○		公務員リテラシーⅠ	公務員として求められる専門能力、コミュニケーション能力の基礎を習得する。	1 通 年	61	4	○	△	△	○		○	○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 公務員学科) 令和4年度 1年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
18	○		ビジネス実務Ⅰ	実社会で求められる基本的なビジネスマナーについて習得する。	1 通年	103	4	○	△		○		○		
19	○		キャリア実習	課題解決・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を身につける。	1 後期	68	2				○	○	○	○	
20	○		エクセル演習	広く社会で活用されているExcelの活用技法を学ぶとともに表計算処理技能認定試験3級合格に向けた知識・技能の習得、また、卒業研究など表を使用した作品作りに応用させる。	1 前期	60	4	△	○		○		○		
21	○		公務員総合演習Ⅰ	前期の学習内容を実践的にまとめ、来年度の公務員試験を見据えて模擬試験の実践編、面接対策を取り入れ、試験本番の雰囲気を取り入れた授業を実践する。	1 後期	41	2	△	○		○		○		
22	○		公務員総合演習Ⅱ	前期の学習内容を実践的にまとめ、来年度の公務員試験を見据えて模擬試験の実践編、面接対策を取り入れ、試験本番の雰囲気を取り入れた授業を実践する。	1 後期	50	3	△	○		○		○		
23	○		公務員総合演習Ⅲ	前期の学習内容を実践的にまとめ、来年度の公務員試験を見据えて模擬試験の実践編、面接対策を取り入れ、試験本番の雰囲気を取り入れた授業を実践する。	1 後期	67	4	△	○		○		○	○	
24		○	ビジネス演習Ⅰ 簿記会計	企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算にいたる記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させる。	1 後期	30	2	○	△		○		○		
25		○	ビジネス演習Ⅰ ワード演習	パソコンやネットワークに関する基礎知識を身につけるとともに、Microsoft office 2016を使用した文章作成	1 後期	30	2	△	○		○		○		
26		○	ビジネス演習Ⅰ 非言語分野	言語能力の向上や数的処理・判断を要する非言語系の演習を通して論理的思考の向上をめざす。	1 後期	30	2	○	△		○		○		
27	○		情報リテラシーⅠ	論理的な思考を養うためプログラミングの基礎を学ぶ。また、動画作成のスキルも身につける。	1 前期	30	2	△	○		○		○		
合計					23科目	838 時間(47単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 公務員学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		政治経済Ⅱ	日本の政治および経済の応用を習得する。	2 前期	32	2	○	△		○		○		
2	○		歴史Ⅱ	日本史および世界史の応用を習得する。	2 前期	15	1	○	△		○		○		
3	○		地理Ⅱ	日本および世界の地理の応用を習得する。	2 前期	16	1	○	△		○		○		
4	○		生物・地学Ⅱ	植物や動物の生態の応用を習得する。天、地の応用を習得する	2 前期	43	2	○	△		○		○		
5	○		物理・化学Ⅱ	力学や電気に関する応用を習得する。物質の構造や化学反応式に関する応用を習得する。	2 前期	43	2	○	△		○		○		
6	○		判断推理Ⅲ	文章や図形などで与えられた条件をもとに判断する応用力を習得する。	2 前期	46	3	○	△		○		○		
7	○		数的推理Ⅲ	数や式から与えられる数的条件をもとに問題を解決する応用力を習得する。	2 前期	66	4	○	△		○		○		
8	○		教養演習Ⅱ	授業で習得した知識・知能分野の習熟度を確し、本試験に向けての実戦力を養う。	2 前期	102			○		○		○		
9	○		公務員リテラシーⅡ	公務員として求められる専門能力、コミュニケーション能力の実践力を習得する。	2 前期	54	3	○	△	△	○		○		○
10		○	分野別特講Ⅲ体育	公安系分野の公務員試験で必須となる体力強化の方法の応用方法を習得する。	2 前期	30	2		○	△		○	○		
11		○	分野別特講Ⅳ体育	公安系分野の公務員試験で必須となる体力強化の方法の応用方法を習得する。	2 後期	39	2		○	△		○	○		
12		○	分野別特講Ⅲ教養対策	事務系分野の公務員試験で必須となる国語分野・数学分野を中心に実践力を高める。	2 前期	30	2	○	△		○		○		
13		○	分野別特講Ⅳ教養対策	事務系分野の公務員試験で必須となる国語分野・数学分野を中心に実践力を高める。	2 後期	39	2	○	△		○		○		
14	○		公務員総合演習Ⅳ	前期の学習内容を実践的にまとめ、模擬試験の実践編、面接対策を取り入れ、試験本番の雰囲気を取り入れた授業を実践する。	2 後期	41	2	△	○		○		○		
15	○		公務員総合演習Ⅴ	前期の学習内容を実践的にまとめ、模擬試験の実践編、面接対策を取り入れ、試験本番の雰囲気を取り入れた授業を実践する。	2 後期	50	3	△	○		○		○		
16	○		公務員総合演習Ⅵ	前期の学習内容を実践的にまとめ、模擬試験の実践編、面接対策を取り入れ、試験本番の雰囲気を取り入れた授業を実践する。	2 後期	67	4	△	○		○		○		○
17	○		ビジネス実務Ⅱ	実社会で求められる文書作成力やビジネスマナーについて習得する。	2 通年	83	4	○	△		○		○		

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 公務員学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
18	○		パワーポイント 演習	パワーポイントの知識・技能の習得、また、卒業研究などワープロを使用したり作品作りに応用させる。	2 後期	16	1	○	△		○		○		
19	○		卒業研究	公務員や社会時事に関連した内容をグループで深く研究・追究し、知識を深め、研究レポートの作成とプレゼンテーションを行う。	2 後期	32	2	△	○		○		○		
20	○		プレゼンテーション 技法	効果的なプレゼンテーションのためのスキルアップのため、人前で話す知識・技能を習得する。	2 後期	32	2		○	△	○			○	
21	○		ビジネスマナー 演習	敬語の使い方や名刺交換、来客対応など社会人として求められる具体的なマナー技術を習得する。	2 後期	32	2	○	△		○			○	
22	○		親学	親としてすべきことを学び、さらに人としての成長を目指し、人間力を高めるライフデザインを学ぶ。	2 後期	16	1	○	△		○			○	
23		○	医療事務	医療機関の役割を理解し、簡単な保険請求を学ぶ	2 後期	15	1	△	○		○		○		
24		○	ビジネス実務法 務	ビジネスに関連する法律の学習を通じて、社会の仕組みや業務におけるリスクを学ぶ	2 後期	15	1	○			○		○		
25		○	デザイン入門	書類やスライドなど、どの業界に出ても必要となるデータ作成上で必要となるデザインについての基礎知識を身につけ、実践する	2 後期	15	1	△	○		○		○		
26		○	HP動画	HPや動画を制作するための基礎的な知識やセンスを身につける。	2 後期	15	1	△	○		○		○		
27		○	音楽	日本に伝わる四季折々の歌や世界に広がる歌を歌いながら楽器や身体、絵に描く等、表現力を高め感性を豊かにする。	2 後期	15	1	△	○		○			○	
28		○	RPA実習	作業自動化ツールであるRPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラムの思考力を養う	2 後期	15	1	△	○		○		○		
29		○	Excel・データ 分析	Excelを使ったデータの活用、集計、分析方法の基礎知識について学ぶ	2 後期	15	1	△	○		○		○		
30		○	一般知能	数的推理・判断推理・資料解釈を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける	2 後期	15	1	○			○		○		
31		○	健康管理	人体の仕組みと代表的な病気の予防について理解し、健康管理の基礎を学ぶ。	2 後期	15	1	○			○		○		
32		○	ロジカルシン キング	グループワークやディスカッションを通じて、論理的思考に用いられるフレームワーク(考え方)を学ぶ。	2 後期	15	1	△	○		○		○		
33		○	ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身につける。	2 後期	15	1	○	△		○			○	

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 公務員学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
								必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	
34	○			ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形(行書体も含む)を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2 後 期	15	1	△	○		○		○	
35	○			応用文章技能	文章を書くための素材を集めるポイントや文章の構成などを講義するとともに、毎回、テーマに即した文章を書くこと(添削あり)を通じて、実践的な文章技能の習得を目指す。	2 後 期	15	1		○		○		○	
36	○			フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2 後 期	15	1	△	○		○		○	
37	○			世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事することを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2 後 期	15	1		○		○		○	
38	○			ビジネス演習Ⅱ 簿記会計	企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算にいたる記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させる。	2 後 期	30	2	○	△		○		○	
39	○			ビジネス演習Ⅱ ワード演習	パソコンやネットワークに関する基礎知識を身につけるとともに、Microsoft Office 2016を使用した文書作成	2 後 期	30	2	△	○		○		○	
40	○			ビジネス演習Ⅱ 非言語分野	言語能力の向上や数的処理・判断を要する非言語系の演習を通して論理的思考の向上をめざす。	2 後 期	30	2	○	△		○		○	
合計					22科目	900時間(46単位)									
総科目					45科目	総時間 1,738時間									
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③公務員試験1次試験(体力試験除く)、 漢字検定3級、ニュース検定3級、 サーティファイExcel検定3級、 コミュニケーション検定初級のうち2つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			16週					